

◎景気ウォッチャー調査[2022年9月]

2022年9月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を2.8ポイント上回る48.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの新規感染者数や新型コロナウイルス感染症に関するネガティブなニュースが減少していることで、来客数が戻り始めている。更に、県民割の復活で、来客数の増加に拍車がかかっている。」(都市型ホテル)、「10月からのたばこや食品等の値上げ前の駆け込み需要もあり、客の動きが良くなっている。」(コンビニ)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.1ポイント上回る47.0となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「物価の上昇など様々なマイナス要因はあるが、全般的に景気は多少良くなってきている。」(化学工業)、「来客数や成約件数が増加している。」(不動産業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント上回る48.5となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じ始めており、近い将来の人手不足に向けた求人の動きが感じられる。」(人材派遣会社)、「季節要因もあるが、求人受注数が前月比114%、求職者の登録数も前月比126%となっている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.2ポイント上回る55.9となった。

| | 9月 | 8月 | 前月差 |
|-----------|------|------|-----|
| 合計 | 48.2 | 45.4 | 2.8 |
| 家計動向関連 | 47.0 | 43.9 | 3.1 |
| 企業動向関連 | 48.5 | 46.2 | 2.3 |
| 雇用関連(参考値) | 55.9 | 54.7 | 1.2 |

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.4ポイント下回る49.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「10月からの全国旅行支援の開始による観光客の増加や入国規制要件の緩和によるインバウンドの増加で、景気は良くなる。」(都市型ホテル)、「イベントが開催されるようになり、今後、夜の街も人出が増加する。」(タクシー運転手)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.6ポイント上回る50.6となった。

企業動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し、「鉄鋼向け大型案件が終了し、また、鉄鋼向け需要に減少の兆しが出ていることから、今後、生産水準は低下の方向に向かう。」(窯業・土石製品製造業)、「今後も円安傾向が続き、原材料価格の高騰が収益を圧迫する。」(非鉄金属製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.1ポイント下回る45.6となった。

雇用関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少したため、前月を4.6ポイント下回る48.5となった。

| | 9月 | 8月 | 前月差 |
|-----------|------|------|------|
| 合計 | 49.4 | 49.8 | -0.4 |
| 家計動向関連 | 50.6 | 50.0 | 0.6 |
| 企業動向関連 | 45.6 | 47.7 | -2.1 |
| 雇用関連(参考値) | 48.5 | 53.1 | -4.6 |